

英語民間試験の活用に関する国立大学協会の検討状況についての 一部報道について

このたび日本経済新聞の2月17日付け朝刊において、「英語、民間試験配点
わずか 最大で1割弱 国大協検討」との見出しで、国立大学協会が2020年度
からの大学入学者選抜において導入される民間の英語試験の配点を最大でも英
語全体の1割とする方向で検討していると報道された。

当協会においては、昨年11月に「平成32年度以降の国立大学の入学者選抜
制度－国立大学協会の基本方針－」を決定・公表したところであり、現在、この
基本方針を受けて、本年度中を目途に「英語認定試験及び大学入学共通テストの
記述式問題の活用に関するガイドライン」を作成すべく検討していることは事
実である。

しかし、現在、当協会において、報道されたような民間の英語試験の具体的な
配点の案を示しているという事実はなく、今回の報道は誤った情報により関係
者に不安や混乱を招きかねないものであり、誠に遺憾である。

当協会としては、先に述べた「ガイドライン」が所要の審議を経て決定された
後、速やかに公表し当協会の考え方を説明したいと考えている。

平成30年2月19日
国立大学協会入試委員長
岡 正 朗